

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671200364		
法人名	株式会社ケアトラスト		
事業所名	グループホームメイプルリーフ宇治 ナデシコ		
所在地	京都府宇治市槇島町本屋敷10-1		
自己評価作成日	平成26年7月21日	評価結果市町村受理日	平成26年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2671200364-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

支え合い、自立・開放、前向きの方針に基づき、利用者の意向にそったケアが、提供出来るように努めている。利用者の意向にそい、個別外出にも力を入れている。月に1回は必ず全体の外出レクを企画し、気分転換を図っている。ご家族を招待しての忘年会も開催している。ご家族の協力のもと終末期ケアにも取り組んでいる。室内レクの充実にも努め、利用者参加型のおやつレクにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは住宅地の中にあり、小規模事業所やデイサービスが併設されています。地域の中で楽しく快適に過ごしてもらいたいと願いを込め「支えあい 自立 開放 前向き」を理念とし、職員は日々のケアが利用者、家族の笑顔や満足のいく暮らしとなるよう日々支援しています。隣接する保育園や他の保育園との交流の他、併設のデイサービスとの交流や地域の高齢者が集うサロンなどに積極的に出かけホームを知ってもらえるよう働きかけています。また、職員は利用者の側で笑顔でゆったりと関わりながら利用者の声を聞き、居酒屋やカラオケ、馴染みの場所など行きたい所に出かけています。利用者のホームでの暮らしの幅も広がり、穏やかな表情でホームでの暮らしを楽しまれています。また職員の意見を取り入れ、意欲ややりがいをもって働けるよう職場環境も整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り上げ、誰の目にも付きやすいように玄関に掲示している。ユニット内にも目につく場所へ、理念を掲示している。	法人の理念の基、独自の方針を玄関や各ユニット内、パンフレットにも掲載しています。移転後、理念にそって目指す方向性を新たに考え、玄関に掲げています。職員会議や半期毎に行う自己評価の中で方針に沿ったケアの振り返りや確認をしています。入職時に方針に込めた思いを説明し、全職員で共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の中学から体験学習を受け入れた。また、説明会などを催し、地域住民との距離は近くなっている。近隣保育園との交流も充実している。榎島デイで行なうメイプルカフェに参加し、地域交流をしている。	民生委員から情報もらい、地域の高齢者が集うサロンや併設施設が地域に向けて行うカフェに出かけ交流しています。中学生の体験学習の受け入れや保育園の発表会や文化祭を見に行く際は、利用者の手作り雑巾を贈ったり、ホームの夏祭りに招き交流しています。日々散歩や近隣への買い物で出会った方とは挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域のサロンに参加している。説明会などを催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的に報告し、家族代表者、地域の方等、様々な視点から意見を頂き、サービス向上に活かしている。宇治市職員の参加も要請している。	会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表などの参加の下、隔月に開催しています。消防訓練と兼ねた会議では、夜間帯の誘導についての意見をもらい搬送用の備品を購入したり、感染症対策について出された意見ではマニュアルを作る等、貴重な意見や要望は話し合い運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者等が、市担当者と会う機会を作り、相談等を行っている。	事故報告や更新手続きの他、分からない事があれば、市へ外向き相談をしています。運営推進会議に参加を得る時もあり、介護相談員の受け入れや議事録を都度届ける際に実情を伝えるようにしています。市主催の研修に参加し情報交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の理念にも基づき、開放的なケアに努めている。帰宅欲求が強いご利用者がいる場合でも、その原因を追究し安易に鍵をかけるようなケアはしていない。	全職員を対象に身体拘束に関する研修を実施し、拘束に繋がる対応など問題が生じた際には委員会を立ち上げ検討し、言葉の抑制も含め具体的な事例等で理解を深めています。玄関やフロアは開放し、職員間で連携しながら自由に出入りができるよう見守り、利用者が外に出かけたい時には一緒に付き添い外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体として、虐待の防止に関する研修により学ぶ機会が設けられている。		

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダー研修の時に権利擁護に関する制度の研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員が、御家族が納得するまで、説明、話し合いを行っている。現場スタッフも介護支援専門員に密に連絡報告を行っており、説明がスムーズに行えるよう支えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回、ケアプラン説明時に機会がある。介護相談員、外部評価、運営推進会議を取り入れ、機会を設けている。	面会時には職員が必ず話をするようにしており、利用者の様子を伝える中で意見を聞いたり、行事のある時や介護計画の見直しの際にも意見を聞いています。出された意見より職員の名前が分かるよう玄関に掲示したり、通信の中で職員を紹介するなど、意見はユニット毎に工夫し反映させています。利用者の声は日々の関わりの中で聞き、外出行事などに繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議があり、意見交換をし、取り入れている。また、定期的に常勤勉強会、職員面談を行っている。また、ユニット会議にも参加し、職員の意見を聞くようにしている。	職員会議とユニット会議が月1回ずつあり、非常勤職員の意見はユニット会議で聞き、欠席者は事前に意見を伝えています。また各委員会を通してケアに必要な物品購入や行事の企画について提案が出されたり、休憩室の清掃当番を決めるなど意見を取り入れています。職員は日頃から所長や管理者に気軽に意見を伝えており、非常勤の職員には定期や何かあれば随時に面談をし意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤は年3回の面談と、自己評価の提出をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月ごとに常勤で事例研究の勉強会を行っている。外部の研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、勉強会や職員の交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話を多く持つ様にし、何を思っているのか、どうしたいのか等、聞き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時には、会話を持つようにし、話しやすい雰囲気を作るように努めている。連絡を密にとる為必要時には電話をし、速やかに情報が伝わるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に、必要であれば他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人を尊敬し、色々なことを教えてもらっている。学ばせてもらう気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会話の中に若い頃や家族との思い出などを話していただくなどで絆を大切にしていこう努力している。ご家族が遠方の方は、ご本人と月1回電話で話せるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に親しくしておられたご近所の方の訪問も受け入れている。(家族の同意あり。)入居前に利用されていたスーパーや百貨店へもお連れしている。	近所の方や友人の面会時には居室に案内しテーブルを置き、ゆっくり寛いでもらっています。以前行っていたスーパーや百貨店、地域のイベントに出かけたり、宇治のお茶作り体験などに行っています。利用者から聴いた思いを家族に伝え、家族との墓参りや外食が実現したり、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に外出する機会を作ったり、会話に巻き込んでいき、他利用者と関わっていけるように気をつけている。集団レクの提供時に共同作業をされる場面が多く見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了後に、継続して関わりを持っている利用者はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人を尊重し、希望や意志を大切にしている。個別レクにも力を入れている。	入居に向けた面談時に本人、家族から聞いた希望等をアセスメントシートに記入し、家族にも書いてもらった情報や前のケアマネジャーからも聴き、思いを把握しています。関わりの中で気づいた事や利用者の様子、会話の内容などはケース記録に記入し、ケース会議で検討し思いが把握できるように努めています。また日々の会話は思いを引き出せるような言葉がけを心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方にセンター方式の生活歴等の記入をしてもらっている。本人、家族の方から、これまでの生活について、会話の中で聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日どのように過ごしていたか、様子等を個別ケースに毎回記入し、月一回のケース会議、又は、必要時に意見交換している。申し送りを徹底して行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向を取り入れ、ケース会議で全スタッフがモニタリングや課題分析を行ったものをケアマネがまとめ作成している。	アセスメントや本人、家族の思いや希望を基に、ケース会議を開き、介護計画を作成しています。毎月ケース会議でモニタリングを行い、3か月毎に評価し、変化がなければ6ヶ月で見直しています。医師の意見書や訪問マーサージ師の意見は事前に聞き、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤者は、必ず一日の様子等を個別ケースに記入、確認し、情報の共有に努めている。また、その記録と職員の意見を元にケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急を要する場合の病院受診の付き添いや要望に応じたレクレーションの提供に努めている。定期受診の際、ご家族の車への乗車をスタッフが行なっている。		

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で生活していけるよう外出に力を入れている。また地域資源は現在、模索中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医による月2回の往診、必要時には相談、往診してもらっている。入居前からのかかりつけへ通っておられる方もいる。外部のかかりつけ医に日頃の様子を伝えるため、連絡ノートを作っておりアドバイスももらっている。	これまでのかかりつけ医を継続している方も多く、連絡ノートで日頃の状況が分かるようにし、受診時の情報提供に活かしています。家族が受診を支援し、職員も必要な時は同行しています。月2回協力医の往診があり、状況により随時の往診もあります。歯科往診や訪問マッサージは希望する方が受けています。協力医の看護師や併設の看護師、医師との連携も図られ、いつでも相談が出来る体制です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みの看護師と24時間連絡が取れる体制になっている。小規模の看護師にも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室と相談しながら、病状の把握や早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランの作成時にご家族の意向を確認している。また、ご本人の意思の確認も行っている。方針を立て、ケース会議で統一したケアができるように取り組んでいる。	契約時に終末期について説明し、ホームで対応できる事やできない事を伝え、同意をもらっています。食事が摂り難くなった場合は医師から家族に説明が行われ、家族の思いを再確認しています。関係者と方針を共有し、看取りに近い状況まで支援した経験があります。職員はターミナル研修に参加し伝達研修を行い、ケースに沿った支援の方法を学び、不安の解消に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。災害時には、地域住民に協力をお願い出来るように文書を出している。夜間想定訓練も実施。ホール内に避難用具を置き、すぐに使用できる状態にしている。	併設の事業所と合同で昼夜を想定した訓練を年2回行い、内1回は消防署の協力を得ています。通報、水消火器の訓練、命を優先にした誘導の仕方や器具を使った避難方法等のアドバイスをもらい、自主訓練に活かしています。近隣には案内の文書を手渡したり、運営推進会議の場でも案内や報告をしています。避難場所である小学校へ行くルートは散歩時に確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室でのドアを開ける際はノックをしている。又、丁寧語や尊敬語を使うように徹底している。	理念や方針に高齢者を敬うと謳い、言葉遣いは敬語や丁寧語で対応するよう指導に努めています。居室への出入りはノックや声をかけを行い、排泄時には羞恥心に配慮しています。市で行われる接遇マナー研修には、新人職員を中心に参加してもらい、伝達研修の中で全員に周知しています。不適切な対応が見られた時は主任が注意し、会議でも検討しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか、どこに行きたいか等、リクエストを聞いたり、服を選んでもらったりしている。何かをするときは、尋ねて意思を確認するようにしている。食事・献立作りにも参加を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できるように努め、外出希望がある方には、できる限り応じるように心掛けている。日常の会話で今日はどうのように過ごすかの希望を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時にご本人に選んでいただいている。外出時には、お化粧を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、野菜の皮むき、味付け、盛り付け、後片付けをして頂いている。一緒に買い物に出掛け、選んだ食材をメニューに追加している。	利用者と考えて献立を立て、週2~3回利用者と買い物に行っています。差し入れの材料や収穫した物も用いて、利用者は下準備や味付け、片付け等できる事に携わっています。餃子やチヂミ、手作りおやつ、誕生会のケーキ等を一緒に作ったり、外食で回転寿司やしゃぶしゃぶ、焼肉等に出かけています。寿司の出前や玄関前でパーティーをすることもあり、食事を楽しめる機会が多彩にあり、職員も一緒に会話をしながら食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが、主に皆様の好きな食材を考慮し、一日のバランスを考えながら支援を実施している。水分は常にポットにお茶が用意され、自由に飲める。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼・夕食後は口腔ケア。朝食後は食膳の水分補給をしている。また月2回の訪問歯科時に衛生士より口腔ケアを受けている。		

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方のみ、定時トイレ誘導を行い、排泄のタイミングをつかみトイレでの排泄ができるように促している。全利用者の排泄チェック表を作成し、役立てている。	個々の排泄の記録からパターンを把握し、個々の状況に合わせて声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援をしています。体調不良時に紙パンツやパッドへの変更があった方やオムツで退院した方も早期に元の状況に戻れるよう支援しています。薬に頼らない排便コントロールや行きたい時にトイレへ行けるよう観察を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をしている(食物繊維を多く含む食材の提供など)。腹部マッサージを行う。ホットパック、ホットミルクを提供している。毎朝ヨーグルトを提供している。豆乳を飲む習慣もとりにいれている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、時間帯の希望がある方にはそれに応じている。	入浴は週3回を目途に日中の時間帯に個々の体調を見ながら声をかけ、入浴してもらっています。拒否される時は職員を変えたり、時間を見計らって声をかけ無理なく入ってもらっています。柚子や菖蒲を使った季節湯や好みのシャンプー、化粧水の利用の他、嵐山まで観光を兼ね足湯に出かけることもあり、入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間にできるだけ活動を促し、夜間ゆっくり眠れるように心がけている。疲れているときは、昼寝を促す。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報シートを使用している。服薬管理表のチェック。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、買い物、調理等本人の好みに合わせてしていただいている。生け花サークルへの参加者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団での外出にこだわらず、個別に希望を聞くようにしている。喫茶店やスーパー等へは日常的に出かけている。百貨店やカラオケにも出掛けている。	全利用者が毎日散歩に出かけたり、個別の希望を聞いた外出支援を大切に、買い物の行き先も利用者の希望を聞いて出かけています。保育園や地域の行事に出かけたり、菜の花や紫陽花、桜、梅等、季節毎の花見やドライブ、嵐山観光などの外出の他、家族に声をかけて陶芸教室に行ったこともあります。また、玄関前で気分転換を図るなど、戸外に出る機会を多く作っています。	

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけてとき、本人が選び、支払いができるように見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望をかなえるように支援している。精神的に落ち着いて頂けるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	机の上に季節の花を置き、季節感を楽しんでいただく工夫をしている。又プランターで花を育てている。その月に合った植物や生き物を壁画にしている。	明るく、広い共用空間は、自然の風や採光を取り入れ気持ちよく過ごせるよう配慮しています。居室とリビングをつなぐ廊下も広々と行き来しやすく、廊下にソファや椅子を置き、寛げる居場所を作っています。ベランダや玄関に花や野菜を植え、季節感のある生花や作品を壁に飾ったり、食事作りなど家庭的な雰囲気の中で寛げるよう配慮しています。換気、温度、湿度の管理と共に清掃にも心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の席を近くし、コミュニケーションをとっていただいている。一人の時間を過ごしたい方は個人の個室へ誘導を促す。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具を持ってこられたり、仏壇を持ち込まれる方もいる。居室の模様替えなどは、本人と共に行う。お気に入りのご家族、本人の写真を飾っている。	居室にはベットやクローゼットが備え付けられ、利用者は家族と相談しながら自宅と同じように過ごせるよう畳を敷いたり、炬燵や食器棚、ソファ、テーブル等置き、その人らしい居室作りがなされています。気に入っている人形や衣紋掛け、仏壇、編み物セット等、大切な物や使いなれた物を持ち込み、家族の写真や手作りの作品を飾り、安心できる居場所になるよう配慮しています。毎日掃除を行い清潔な居室を保てるよう心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応。居室の前に表札を掲げている。		